

クラス	Q301	担当教員	伊藤 修毅
テーマ	障害のある人々の思春期・青年期の教育・福祉・労働		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】「高等学校・障害児教育の現状と課題」（清水貞夫ら編『通常学校の障害児教育』,2003,pp167-185）、「new perspectives on special needs and inclusive education in Japan」（Winzer, M.ら編『International Practice in Special Education: Debates and Challenge』,印刷中）など</p> <p>【論文】「データから見る障害児・者の「自慰」「性犯罪」」（季刊セクシュアリティ 42, 2009, pp.30-33）、「高等部単置型知的障害特別支援学校の現状と意義」（奈良教育大学紀要 58(1), 2009, pp.89-99）、「障害者雇用施策と市民の人権意識—日韓比較調査から—」（立命館大学産業社会論集 47(2), 2011, pp.105-120）など</p> <p>【研究課題】障害のある青年の発達と人権の保障</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード： 特別支援教育 障害者福祉 思春期・青年期 セクシュアリティ教育 進路保障			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>このゼミでは、障害（様々な特別なニーズや困難全般を含む）のある人々の思春期 and/or 青年期というライフステージに着目し、その課題を「社会問題」として検討していくことを目的とする。障害等にもなう困難は、その人の生活する「社会」との関係によって大きく変化する。学生には、その「社会」に目を向け、その「社会」を構成する一市民としての課題や、専門職としての役割を考えることのできる力を養ってもらいたいと考えている。将来、特別支援教育や障害者福祉の職を目指す学生が主たる対象になると考えるが、この目的に沿った研究に対し「やる気」がある学生であれば進路希望は問わない。</p> <p>具体的な研究テーマとしては、「通常の高등학교での特別支援教育」「障害児者の性（セクシュアリティ）教育」「特別支援学校高等部の就業年限問題」「障害者の青年期とキャリア教育」「触法障害者の支援をめぐる問題」等、様々なものが想定されるが、学生は、自らの興味・関心に沿って、研究テーマを設定してほしい。</p> <p>前期のゼミでは、研究テーマを少し広い枠組みで設定し、そのテーマに関連する資料や文献購読を行い、具体的な研究テーマへと絞り込んでいく作業を行う。テーマに関する基礎知識をしっかりと身につけ、問題意識の明確化をはかってほしい。</p> <p>後期のゼミでは、絞り込んだ研究テーマに対し、今までどのような研究がなされているのか、それをふまえると自分は何を明らかにするべきなのかを考えていく。同時に、そのためには、どのような方法で研究をすればよいのかを明らかにしていく。</p> <p>ここまでの活動をふまえ、卒業論文執筆に向けた研究に入ることになる。進度によっては3年次末から実査に入ることが望ましいが、遅くとも4年次の前半には実査に入れるように進めていきたい。</p> <p>共通の研究テーマをもつ学生がいる場合はグループ研究も可とするが、基本的には一人ひとりが、それぞれの研究テーマに向かって進めていくことになる。毎週のゼミでは、適宜、研究の中間報告を行ってもらい、それをゼミ生全員で検討していくことになる。発表者はレジメやパワーポイントを用いて、わかりやすい発表をめざしてもらいたい。同時に、聴く側となる学生は、しっかりと発表を受けとめ、適切な質問・意見・批判等を行ってもらいたい。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>3・4年のゼミは、大学での学びの「集大成」となるものです。発表の準備、レポート・卒論の執筆など、それなりの「苦勞」をすることになると思いますが、ゼミ生同士、協力し、また、切磋琢磨し、卒業論文という形になったときの「達成感」を共有しましょう！</p>			